

別表甲

人材養成に関する目的およびその他の教育研究上の目的

【経済学部】

経済学部は、学修を通して自分の考えをつくりあげ、自ら進んで社会の持続的な発展と人びとの福利に寄与できる人材の育成を目指す。この目的を実現するため、昼間時間帯の受講を中心とする昼間主コースと夜間時間帯の受講を中心とする夜間主コースを設置し、経済学の基礎から応用・実践までを「地域経済系列」と「国際経済系列」として系統的に学ぶカリキュラムを編成している。加えて、系列の下に、就職やその後の業務を意識して学生が選択する「地域経済トラック」「国際経済トラック」「金融トラック」「公共トラック」「経済教育トラック」という五つのトラックを置いている。これらのトラックでの学修を通して、地域の産業界や地方公共団体などで活躍する人材や、グローバルな視点を身につけて国内外で活躍する人材の養成を目指している。

【学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

経済学部では、基礎教育科目と外国語科目で多様な科目と外国語を学修し、幅広い教養的知識と多様な文化ならびに価値を知り、加えて専門教育科目の学修により専門的知識と応用力を身に付け、総体として、社会に寄与するに必要とされる知恵とモラル、そして人間力を修得した者に対し、卒業と学士の学位を授与する。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

少人数制のゼミナールを重視した教育を行う。経済学を中心に会計学・経営学、法学・政治学、情報学、体験型科目、キャリア科目などを学ぶ専門科目群、豊かな人間性を養う基礎教育科目群、及び国際的なコミュニケーション能力を身につける外国語科目群により、カリキュラムを編成している。

専門科目についてはマイクロ経済学入門、マクロ経済学入門、現代の経済学入門、経済数学入門、情報処理入門、統計学、経済史、社会思想史など基礎的な科目を1年次に履修し、2年次以降に「地域経済系列」と「国際経済系列」に共通に配当された専門科目を、各トラックにしたがって履修する。各トラックでは、上に挙げた基礎的な科目の他、重要なものが推奨科目として提示されている。例えば、地域経済トラックでは、日本経済史、地域経済論、地域開発論、社会保障論、中小企業論、経済地理、経済変動論、実践企画演習など、国際経済トラックでは、西洋経済史、国際経済学、貿易論、農業経済論、アジア経済論、経済学史、経済思想史、海外研修など、金融トラックでは、簿記論、金融論、国際金融論、銀行論、情報処理論など、公共トラックでは、経済原論、国民所得論、公共経済学、経済政策、財政学、地方財政論、社会政策、地方行政論など、経済教育トラックでは、マイクロ経済学入門、マクロ経済学入門、法学概論などが推奨される。

このように各トラックの推奨科目を設けることで、各学生を就職やその後の業務を意識して受講科目を選択するよう導く編成にしている。

【入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）】

経済学部の教育目標である、「地域の産業界や地方公共団体などで活躍する人材や、グローバルな視点を身につけて国内外で活躍する人材の養成」に賛同する人に対し、積極的に門戸を開いている。より具体的には、現実の経済について興味・関心の高い人、経済の知識や資格を活かして実務の世界で活躍したい人、地域社会の発展や活性化に貢献したいと考える人、グローバルに活躍したいと考えている人を、年齢を問わず積極的に受け入れる。

このような入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を学則、ホームページなどに明示し、受験生に対し、分かり易く説明している。また、推薦入試の合格者に対しては、入学前に『合格者のみなさんへ』という文書とともに、高校時代に読んでおくと望ましい書物の一覧を送付し、入学に備えるよう促している。

【商学部第一部（商学科・観光産業学科）・商学部第二部（商学科）】

商学部は、「産学一如」という建学の理想を反映して、旧来の狭い範囲での商業活動に限定せず、グローバルなビジネスと観光の一大拠点である福岡を基盤とした実践的教育を通して、企業・経済活動、地域社会、国際社会に対応できる多様な価値観と幅広い視野を持つ「快活で行動力あるビジネスリーダー」を育成することで、地域社会への貢献を目指す。

《商学科（第一部・第二部）》

商学科では、商学を始め、会計学、経営学、経済学の分野における理論的・実践的な教育を通じて、福岡の地の利と伝統を活かし、新しい時代に対応する変化力を持つ「ニュービジネスを創出できる人材」の育成を目指す。

《観光産業学科》

観光産業学科では、観光ホスピタリティ・ビジネス、観光地域マネジメントの分野における理論的・実践的な教育を通じて、社会の変化に対する問題設定、解決能力を身につけ、九州、東アジアを舞台に活躍する「観光プロフェッ

シヨナル」の育成を目指す。

【学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

理論と実践の両面から学び、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地域社会に主体的に貢献できる人材を育成する。教育課程の中から指定された単位を含め、124単位以上を修得し、知識、社会適応力、総合的な学習経験を獲得した者に対して、卒業を認め、学士の学位を授与する。

《商学科（第一部・第二部）》

(1)幅広い教養と専門分野の基礎となる実践的な知識を身につけている。(2)商取引に関して正しく理解できる。(3)問題設定能力とその解決能力を身につけている。(4)マーケットとビジネスに精通した企業人および起業家としてのマインドを身につけている。(5)コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力を身につけている。

《観光産業学科》

(1)観光産業の本質を正しく理解する事ができ、かつ高い倫理観と高度な専門知識を身につけている。(2)観光ビジネス、観光まちづくりに関する高度な専門知識を身につけている。(3)問題設定能力とその解決能力を身につけている。(4)多様な価値観の共有ができ、広く地域社会へ貢献することができる。(5)コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力を身につけている。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

商学部の教育は「産学一如」という本学の建学の理想を体現するものであり、この目的に沿って体系的なカリキュラムを編成し、学生の卒業後の進路等、将来計画に対応した履修モデルを設けている。

《商学科（第一部）》

主に商学を中心として、商業の本質について考察する理論的側面と、経済社会および企業活動での応用・展開を追究する実践的側面から、多面的な視点を養うためのカリキュラムを用意している。商学・会計学・経営学・経済学など、幅広い分野の基礎から応用まで、ビジネス全般に関する総合的な教育を行っている。

《観光産業学科》

ホスピタリティ・マインドを養うとともに多様な価値観を持つ豊かな人間性を育むための教育を行っている。そのため、心の満足を提供する「観光ホスピタリティ・ビジネス」と地域・人との交流に重点を置く「観光地域マネジメント」の両面から観光産業の総合力を修得できるようにカリキュラムを編成している。

《商学科（第二部）》

基本的に商学部第一部商学科のカリキュラムと同様であるが、夜間講座の特徴を活かし、即戦力養成のための資格講座の単位化、他学部履修の選択幅の拡大など、多様なライフスタイルを持つ学生に対応できる教育を行っている。

【入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）】

商学部では、企業・経済活動、地域社会、国際社会に対応できる多様な価値観と幅広い視野を持つ「快活で行動力あるビジネスリーダー」の育成を目指す。理論と実践の両面から学び、多様な学問・文化・言語・価値観の交流に積極的に取り組み、新しい時代に対応する「変化力」を身につけ、地域社会に主体的に貢献しようとする次のような学生を積極的に受け入れる。

《商学科（第一部・第二部）》

(1)世の中の動きを敏感にとらえ、旺盛な好奇心を持って、ビジネスを考えようとする人 (2)「ヒト・モノ・カネ・情報」の流れに関心があり、ビジネスに関する専門的な知識・見識を修得しようとする人 (3)勉学に真摯に取り組み、努力する習慣を身につけようとする人 (4)社会に何らかの形で貢献したいと思っている人

《観光産業学科》

(1)人との交流やサービス業に関心があり、観光に関する専門的な知識を習得したい人 (2)自然や文化を愛し、それらとのかかわりを通じて豊かな人間性を育みたい人 (3)地域や郷土を愛し、それらの発展に寄与したい人 (4)将来、観光産業やホスピタリティ・ビジネスの分野で活躍したい人

【経営学部】

経営学部は、学則第1条に定める九州産業大学の「産学一如」の理想のもと、経営学の専門的な学修を通じて、広く産業界の期待に応えられる“実践力”“熱意”“豊かな人間性”を持った人材を輩出すべく、知性・感性・想像力の開発を重視し、21世紀のグローバル化社会・知識基盤社会の要請に対応できる人材育成に努める。

経営学部が目標とするのは、実社会で即戦力となる有能な人材としての、豊かな教養と深い専門知識を具えた堅実有為の社会的な人格である。国際経営学科ではグローバル社会で活躍できる人材、すなわち、異文化理解と語学力を基盤として、地球社会全体の発展を視野に入れたビジネス・パーソンを養成する。産業経営学科では、IT革命に

よる経営環境の激変に対応しうる独立心旺盛な経営者候補生、すなわち知識基盤社会の要請に対応した起業家マインドとビジネス・スキルを持ちながらも、つねに社会貢献を意識しているビジネス・パーソンを養成する。

【学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

「産学一如」の理想のもとに経営学部が定めた人材育成の目標に到達した者に、学位を授与する。具体的には、国際経営学科・産業経営学科ともに、学生に学士力、すなわち(1)文化・社会・自然等の知識・理解、(2)コミュニケーション能力・問題解決能力等の汎用的技能、(3)自己管理能力・チームワーク・社会的責任等の態度・志向性、(4)総合的な学習経験と創造的思考力を獲得させるとともに、各学科が目標とする人材育成のために編成された教育課程で4年以上学修し、所定の124単位以上を取得した者に対して卒業を認め、学位を授与する。明確に具体化された学位授与方針の積極的な公開のあり方については、常に点検・評価を行うこととする。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

「産学一如」の理想を実現する人材育成のため、(1)経営学の理論と実践をはかる先進的なカリキュラムをベースとして、(2)順次性のある体系的科目編成と、(3)分野別コアカリキュラム、(4)学生の意欲・関心・能力に応じた科目選択、(5)少人数教育の推進を教育課程の編成・実施の方針とし、その運営は、(6)学生一人ひとりに向き合い、その長所伸長を目指す学部教員一体の体制により行う。

経営学部の教育課程の中核は全学年・全セメスター開講のフル・ゼミナール体制と各学科独自の特別コースからなるマルチ・ゼミナール方式である。国際ビジネスコース（国際経営学科）ではグローバルな視野と異文化理解能力及び言語能力を育む実践的な演習を通じて、事業開発コース（産業経営学科）では商品開発や地域貢献等の実践活動を通じて、会計コース（両学科）では会計の専門的訓練を通じて、学部・学科の人材育成目標を目指す。以上の専門教育課程はディプロマ・ポリシーで述べた学士力獲得の基盤となる全学共通基礎教育・外国語教育と連動して展開される。

経営学部の教育の特色は、ゼミナールやPBLなど、学生に能動的な学修を促す全学年一貫のアクティブ・ラーニングの手法に求められる。また、単位の実質化をはかる一方で、開講科目の関連を示したフローチャートや授業計画のシラバスへの明記、GPAによる成績評価など、学生が自主的・自立的に学ぶ体制の構築にも努めている。教育課程の編成・実施の更なる進化のために、定期的な点検・評価を行うこととする。

【入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）】

「産学一如」の理想のもとで、実社会で即戦力となる有能な人材を育成する教育課程に相応しい入学者として、ビジネスを通じて地域社会・国際社会に貢献する目的を持ち、そのために経営学を学びたいという明確な意思を持った入学者を求める。具体的には、(1)将来の目標を明確に持ち、その実現のためにビジネスの知識を必要とする学生、または(2)語学・情報・簿記など、これまで様々な分野の資格獲得のため積極的に活動し、その成果を大学教育の場でさらに高めていきたい学生を求める。

また、入学者の実情に合った受け入れ・定着と教育効果を向上させるために、大学教育と入学者の適合性の観点から、入学者選抜方法と初年次教育プログラムに関する定期的な点検・評価を行うこととする。

【工 学 部】

工学部では、工学の基礎への深い理解を示すとともに、広い視野と柔軟な発想力および豊かな人間性と実践力を育み、もって産業界の中核を支え、かつ国際的にも通用する人材の育成を目指している。そのため、日本技術者教育認定機構（JABEE）のプログラムなどにより、国際的な基準に則した教育を行うとともに、実験実習を重視した体得型実技教育を展開している。あわせて、職業意識を啓発するインターンシップ、資格取得および学生による研究サークル活動を支援している。

《機械工学科》

社会の基盤を支える機械分野に関連した設計、開発、製造など幅広い職場で活躍しうる人材の育成を目的とする。具体的には材料力学、工作法、製図法を中心とする機械工学の基礎に加え、社会人として必要な基本的生活習慣、規範意識、一般常識およびコミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。

《電気情報工学科》

電気電子・情報通信工学に関連する技術は、「エネルギーから情報まで」の広範な分野において基幹技術としての位置を確立しているだけでなく、社会システムのあり方を大きく変革する勢いにある。本学科では、電気電子・情報通信工学分野の産業の発展に貢献できる技術者の育成を目指している。

《物質生命化学科》

物質や生命に関わる広い範囲の知識を理解し、広い視点から問題を解決し、自然と人間との調和を考えた豊かな社会の創造と産業の発展に貢献できる人材を育成する。

《都市基盤デザイン工学科》

「土木デザイン分野」、「施工管理分野」、「まちづくり分野」、「環境緑化分野」の4分野を柱とし、橋梁や建築などの構造物や街並みの設計・デザイン、造園やビオトープの設計・デザイン、生態系の保全まで、幅広い分野の技術と知識の修得を目指し、住みよいまちづくりを学び研究する。

《建築学科》

工学における一般的素養をベースに建築学に関する幅広い専門知識を修得し、安全で美しく快適な人間活動の器としての建築や都市を経済性をも考慮しながら計画し、設計し、築き、運営することができる基礎能力と高度な専門知識と技術およびそれを実務に適用し得る能力を有する技術者。

《住居・インテリア設計学科》

住居・インテリア設計学科では、建築学一般の知識や技術を基盤として、インテリアに強い住宅作家、オフィスやショップの空間設計者、住宅をはじめ各種建築からまちづくりまでを担う建築家、住宅リフォームや高齢者住宅改修アドバイザー、集合住宅の管理業務者など、住宅およびインテリアの専門家養成を目指している。

《バイオリボティクス学科》

機械工学、電気工学、電子工学、情報工学、メカトロニクス、生体工学といった基礎的な技術領域とともに、ロボットや医療・福祉機器をはじめ産業用から家電生活機器に至る幅広い分野に応用される専門知識・教養と高い見識を持ち、社会の即戦力となる実力と創造性あふれる開発力を持った人材の育成を目指している。

[学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）]

工学部では、工学の基礎への深い理解を示すとともに、広い視野と柔軟な発想力および豊かな人間性と実践力を育み、もって産業界の中核を担い、かつ国際的にも通用する人材の育成を目指している。

《機械工学科》

機械分野の仕事で必要とされる基礎学力、機械工学の基礎およびコミュニケーション能力を身に付けた者に学位を授与する。

《電気情報工学科》

電気情報工学の専門基礎能力を有し、その能力に基づいて新しい技術を開発することができる素養を身につけており、科学技術の発展に貢献し、電気電子・情報通信の幅広い分野で活躍できる技術者の育成を目指している。

《物質生命化学科》

物質・生命・環境関連分野において、獲得した知識を知恵に展開できる人、すなわち「豊かな探求能力と解決能力を備え」て、自発的・計画的に行動できる学生を育成する。

《都市基盤デザイン工学科》

目指すべき人物像は、実社会で土木構造物、まち・建物、環境・緑化をデザイン・施工管理する技術者である。具体的到達目標は、幅広い学問的知識を習得し、地球環境に配慮できる素養を身につけることである。

《建築学科》

建築設計・計画・歴史・意匠、建築構造・材料・構法、建築環境・設備、都市・地域計画などに関する高度な専門知識と技術およびそれを実務に適用し得る能力を修得していることである。

《住居・インテリア設計学科》

建築学一般をはじめ、住居・インテリアに関する幅広い知識を基盤にした設計・デザイン能力を有し、これを多様なニーズに対して応用し総合的な問題解決に取り組むことができる実践的技術者を育成する。

《バイオリボティクス学科》

機械工学、電気工学、電子工学、情報工学、メカトロニクス、生体工学といった幅広い学問的知識とその応用力を身につけ、ロボットや医療・福祉機器の開発に携わることのできる創造性あふれる技術者を育成する。

[教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）]

工学部では、工学の基礎への深い理解を促す各学科の専門教育だけでなく、広い視野と柔軟な発想力および豊かな人間性を育むための人文社会科学や芸術などに関する教育、国際的に通用するコミュニケーション力を身につけるための外国語教育を行っている。

《機械工学科》

基礎学力から機械工学の基礎までを段階的に学び仕事に生かせるよう、座学のみならず実験・実習を積極的に取り入れた体系的なカリキュラムを編成する。また、カリキュラムに沿った学習の前提となる「基本的生活習慣」と「規範意識」を身につけさせるための統一的な指導を組み合わせることにより教育効果を高める。

《電気情報工学科》

電気情報工学科の専門教育では、専門科目を電気エネルギー系、通信システム系に分け、その共通系として電気・情報基礎、エレクトロニクス関連科目を設け、基礎知識を確実に修得でき、電気電子・情報通信機器、コンピュー

タ応用技術、電気・通信工事等の幅広い分野での応用力および実践力が身につく系統的な教育を行っている。

《物質生命化学科》

物質生命化学の基礎となる「化学・生物」に重点をおいた少数教育を行ったのち、応用生物・応用化学の専門について重点的に教育する。さらに、学んだことを社会に役立てるため、総合的な視野と柔軟で論理的な思考力を培う。

《都市基盤デザイン工学科》

「実社会で土木構造物、まち・建物、環境・緑化をデザイン・施工管理する技術者の育成を目指す教育」を教育目標とし、実務を重視した教育を行っている。教育課程は、土木デザイン分野、施工管理分野、まちづくり分野、環境緑化分野の4分野にわたる基礎科目、専門科目、実験科目、演習・実習科目で構成されている。

《建築学科》

安全性や耐久性などを学ぶ「構造・生産系」、空間の快適性や省エネなどを学ぶ「環境・設備系」、デザインや空間の機能性を学ぶ「計画・歴史系」の3つの専門分野の考え方や相互の関係を学び、それらを総合して建築設計を学修することである。

《住居・インテリア設計学科》

授業科目は、専門科目、基礎教育科目、外国語科目に区分されている。専門科目では、1～2年次に工学的素養や建築・住居を中心とした専門の基本的事項を学ぶための科目を、3～4年次に住居・インテリアの専門性を高める科目、更に建築の専門性を高める科目も配当している。

《バイオリボティクス学科》

創造性あふれる開発力を持った人材の育成に向け、実践力・創造性教育を重視した実験・実習系の科目を含む6系列の専門科目、および、その基盤となる基礎科目、また、国際的なコミュニケーション力を身につけるための英語教育を中心とした外国語科目、社会人基礎力を高めるキャリア系科目によって構成される。

【入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）】

工学部では、工学の基礎への深い理解を示すとともに、広い視野と柔軟な発想力および豊かな人間性と実践力を育み、もって産業界の中核を担い、かつ国際的にも通用する人材の育成を目指しており、これを実現するため、科学技術、ものづくりや新たな仕組みづくりに強い関心を持つ人、身につけた知識や技術を社会に役立てたいという情熱を持つ人、目的意識とチャレンジ精神をもって時代を切り開く意志をもつ人を積極的に受け入れる。

《機械工学科》

機械工学を学ぶための基礎学力を有する者および機械工学の学習とそのために必要な基礎学力の修得に強い意欲を持ち、かつ学んだ内容を機械に関わる業務の現場で生かす意思のある者を受け入れる。

《電気情報工学科》

電気情報工学科は、ハードとソフト、アナログとデジタルに強い技術者の育成を理念としており、電気電子・情報通信工学に関する知識や技術の修得に高い意欲を持ち、課題に粘り強く取り組む人を積極的に受け入れる。

《物質生命化学科》

食品・医薬品分野、材料分野、環境関連分野で活躍したいという目的意識と向上心がある人、実験や観察が好きで、新しい発見に意欲と情熱を持って取り組める人、人とのコミュニケーションを積極的に取れる人。

《都市基盤デザイン工学科》

持続可能な環境づくりについて学修する意欲を持つ人、災害に強く、安心で安全、美しく住みやすいまちづくりに興味を持つ人、学んだ知識や技術を通じて資格を取得する意欲を持つ人を、積極的に受け入れる。

《建築学科》

幅広い教養と高い倫理観をもって専門知識を社会の多様な要請に沿って柔軟に発揮し得る技術者育成のために、建築や住まいづくり・まちづくり、地球温暖化などの環境問題、地震災害や風水害の防止など生活空間の安全性および広く生活空間の歴史や文化・町並み・景観などに興味・関心のある人を求める。

《住居・インテリア設計学科》

建築学一般の知識や技術を基盤として、住居やインテリアの設計、ショップやオフィスまたそのインテリアの設計、広く生活空間の歴史や文化・まちづくりなどに興味・関心のある学生を求める。

《バイオリボティクス学科》

バイオリボティクス学科で学ぶ学問をベースとし、幅広い分野に応用できる専門知識と技術を十分に修得することを希望する学生、課題に対して自ら考え創造性あふれる開発能力を身につけたい学生を募集する。

【芸術学部】

学部は、アートのスペシャリストの育成や産業と芸術の融合を目指した美術学科、デザイン学科、写真映像学科から構成されており、「産学一如」の建学の理想のもと地域産業との連携や国内外の大学との共同研究や人的交流を

基に、「論理的思考力」、「表現力」、「コミュニケーション力」、「感性力」の4つの能力を有し、高い知性と優れた感性を持つ専門家の育成を目指している。

《美術学科》

美術学科は洋画、日本画、造形・彫刻、金属工芸、陶芸、染織工芸の6コースを設置している。1年次に全領域を学び、2年次より希望コースを選択する。3年次より美術文化ゼミナールを加え幅広く展開している。高い専門性を求める、また多様化する美術領域に対応できるカリキュラムによって、国際的に活躍し得る人材を目指す。

《デザイン学科》

ビジュアルデザイン、空間デザイン、プロダクトデザインの分野において、プロフェッショナルとして産業界や地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。建学の理想である「産学一如」を実践するため、実習中心の授業とプロジェクト型教育を通して課題発見と解決能力、提案力、コミュニケーション能力などの育成を目的とする。

《写真映像学科》

写真映像学科は写真表現と映像メディアの2コースを設置。写真表現コースでは写真表現の理論やデジタルおよびアナログ画像処理技術等の知識の習得と実践的な写真表現者を育成。映像メディアコースではコンテンツ制作を通じて想像力・表現力、社会人としての基礎力を備えた映像メディアの表現者の育成を目指している。

[学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）]

芸術学部では、理論と実践を兼ね備えた社会で活躍できるアーティスト、デザイナー、写真家等の育成を目指している。そのため、124単位以上を修得し、創造的活動と研究を通じてアーティスト、デザイナー、写真家等に必要能力を獲得した者に対して学士（芸術）の学位を授与する。

《美術学科》

幅広い教養と人間的にも優れた美術分野の専門家を養成する。自由で人間性豊かな芸術を創造できる人材の育成を目指している。多様化する社会において、文化の創造に貢献できる能力を養成することを目標とする。

《デザイン学科》

デザインに関する基礎理論および技能を修め、それを社会で実践する能力、すなわち社会が抱えるさまざまな問題を自ら発見し解決することのできるデザイン能力を身につけた者に対して、学士（芸術）の学位を授与する。

《写真映像学科》

幅広い知識と教養を持ち、最新の技術にも対応できる写真映像の表現者で、想像力豊かな人材の育成と、多様化する今日の企業の要求に素早く対応し、作品を通じて常に自己を発信する能力を養成することが目標である。

[教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）]

理論と実践を兼ね備えた社会で活躍できるアーティスト、デザイナー、写真家等を育成するという教育目標に基づいて、学部においては総合科目、外国語科目、キャリア科目、専門科目から構成された体系的な教育科目を構成している。

《美術学科》

高い専門性と実技を重視し、少人数できめ細かい指導によって個性を磨き創作意欲が湧く教育を行う。スペシャリストの育成を目標にコースの目的に応じた専門科目を主軸とし、また多様化する美術領域への対応のためコースをこえた専門選択科目を展開する。教養と豊かな人間性を養うために基礎教育科目と外国語科目を履修できる。

《デザイン学科》

デザインの社会的役割の理解とデザイナーに求められるあらゆる教養、考える力、解決する力を育成するため「手で考える」実習中心のカリキュラムと学部間・学外連携プロジェクトによる実践的なデザイン教育を行う。

《写真映像学科》

高い知識と専門技術を有し、社会で活躍できる芸術系のスペシャリストの育成を目標に、専門科目を主体とした幅広い教養と豊かな人間性を養うための基礎教育科目・外国語科目を体系的に履修できるように編成している。少人数によるきめ細かい指導と、個性を磨き、制作意欲を高め、創作活動の幅を広げる教育を行っている。

[入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）]

芸術の分野で創造的活動を行う人材の育成と人間性豊かで国際的視野を持った人材を育成するために、次のような学生を受け入れる。(1)芸術分野に興味があり、創作意欲のある人 (2)好奇心を持ち、何事にも積極的に取り組む人 (3)客観的な視点で物事を判断でき、自己を発信できる人 (4)将来アーティストやデザイナー、クリエイターを目指している人。

《美術学科》

美術分野に興味をもち、感性が豊かで創作意欲のある人。将来、画家・彫刻家・工芸作家・美術教員・学芸員・アートプロデューサー・文化財保存修復・イラストレーター・美術工芸の生涯学習指導者を目指している人。

《デザイン学科》

学びたいデザイン分野がある、修得したい技術がある。デザイナー、クリエイター、アーティストを目指すなど目的が明確。優しさと強い意志を持ち、自分をアピールすること、人とのコミュニケーションをはかることに積極的な学生を望む。

《写真映像学科》

写真と映像はデジタル時代に入り、その技術は急速に進化している。常に最新の技術に興味を持ちながら新しい表現にチャレンジし、その芸術性や実用性について追究していこうとする創作意欲の旺盛な学生を受け入れる。

【国際文化学部】

教育の目標は、急速にグローバル化が進展する21世紀の社会で活躍できる人材の育成である。少人数制クラスを基本として、国際文化学科・日本文化学科・臨床心理学科の共通科目、充実した外国語科目、創造力・指導力・コミュニケーション能力を養成する多彩なゼミナール系科目などを設けている。外国文化・日本文化・人間心理を中心として教養を身につけたうえで、専門的な知識を深く修得することを目指している。」

《国際文化学科》

国際文化学科には、「アジア文化」、「欧米文化」および「英語コミュニケーション」の3コースがあり、高い語学能力と深い異文化理解をもって国際社会で活躍できる人材を育成している。

《日本文化学科》

日本文化学科には、「日本語日本文学」および「歴史・社会」の2コースがあり、日本の文学・歴史・社会についての総合的な知識をもとに、主体性・協調性・行動力をもって地域社会に貢献できる人材を育成している。

《臨床心理学科》

臨床心理学科には、「臨床心理」および「精神保健福祉」の2コースがあり、多くの体験型・参加型授業を通じてコミュニケーション力の向上を図り、心の問題に対し専門的援助ができる人材を育成している。

[学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）]

国際文化学科・日本文化学科・臨床心理学科のいずれの学科も、それぞれの分野で学んだ知見を踏まえて、グローバル社会で活躍できる人材を目指している。そのために、語学・文化・歴史・文学・思想・心理などについて、専門的に学修し、124単位以上を修得した者に学士（国際文化）の学位を授与する。

《国際文化学科》

優れた語学力と深い異文化理解をもって国際社会で活躍できるよう、コミュニケーション能力だけでなく、創造力や問題解決能力等も併せ持った有用な人材となることを目指す。

《日本文化学科》

日本の文学・歴史・社会についての総合的な知識をもとに主体性・協調性・行動力をもって地域社会に貢献できる人材となることを目指す。また、日本だけでなく世界も視野に入れながら、豊かな学識を持ってグローバル社会で通用することを目指す。

《臨床心理学科》

心の問題に対して、専門的援助ができる人材を目指す。また、他者の心理を深く理解できるだけでなく、自己啓発も持続して行うことができる能力を養成する。

[教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）]

国際文化学部は、グローバル社会で活躍できる人材の育成を目標に、少人数クラスを基本として、国際文化学科・日本文化学科・臨床心理学科の充実した専門科目を設置している。10名程のゼミナールによりディスカッションやプレゼンテーションを実施し、企画力、自己表現力、論理的思考力を育成している。

《国際文化学科》

(1)外国語能力を基礎として、アジア・欧米文化等を深く理解できるように教育を行っている。そのための徹底した語学指導のほか、少人数ゼミナールなどを通して国際社会に通用する実力を養成する。

《日本文化学科》

日本の文学・歴史・社会を中心とした研究を行い、日本について深く理解できるように教育を行っている。フィールドスタディなどで実際に現地を調査しながら、日本文化についての知識を現場感覚として身につける。

《臨床心理学科》

人々を取り巻く多彩な環境を理解したうえで、心の専門的援助ができるように教育を行っている。臨床心理学や精神保健福祉学について、現場を意識した専門教育を展開している。

【入学者の受け入れ方針（アドミSSION・ポリシー）】

国際文化学部では、国際化・情報化が進む現代社会で活躍できる人材の育成を目指している。そのため、次のような資質や意欲を持つ学生を積極的に受け入れる。

《国際文化学科》

(1)英語の高度な運用能力を身につけることを望むだけでなく、英語以外の外国語習得にも意欲のある人 (2)アジアや欧米諸国の文化や歴史的背景や現代事情を詳しく学びたい人 (3)外国語能力や外国文化の知識を活かして、広く国際社会で活躍したい人

《日本文化学科》

(1)日本の文学・歴史に好奇心や探求心を持ち、教養を深め、心を豊かにしたい人 (2)住みやすい社会の創造に関心を持ち、地域振興に役立つための素養を身につけたい人 (3)日本語に関心を持ち、コミュニケーション能力を高め、情報発信力を身につけたい人 (4)日本の政治の仕組みに関心を持ち、国際社会での日本の将来像を探求したい人

《臨床心理学科》

(1)人と関わることへの関心が高く、様々な活動へ積極的に参加する意欲のある人 (2)自己の感情状態に気づき、適切な言葉として表現することができる人 (3)他者の心理状態への関心が高く、豊かな人間関係を築くことができる人 (4)社会問題への関心が高く、その背景の理解や解決に取り組む意欲と行動力のある人

【情報科学部】

情報技術（IT）の進展は著しい。情報技術は社会を支える人間の能力を高めるためにある。これに添えて、情報科学部では、「社会と人間のためのIT」を教育研究理念とし、「情報科学・情報技術の基礎を確実に身に付け、高い倫理観を持った職業人として社会に貢献する人材の育成」と「社会の仕組みや人間の特質を知って情報技術を適切に適用できる能力を持った人材の育成」を目指している。この目的を実現するため、情報科学部に2つのコース（情報技術応用コース、情報科学総合コース）を設置し、情報科学・情報技術の基礎から応用・実践までを系統的に学ぶカリキュラムを編成する。情報科学総合コースは日本技術者教育認定機構（JABEE）によって「情報および情報関連分野」の技術者教育プログラムとして認定されている。

【学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

情報科学部における教育の具体的な到達目標は、情報科学・情報技術の基礎を確実に身に付け高い倫理観を持った職業人として社会に貢献できる能力と、社会の仕組みや人間の特質を知って情報技術を適切に適用できる能力を養成することである。これらの能力を身につけたかどうかを判定するため、基礎教育科目群、外国語科目群、専門科目群から所定の単位を含む総修得単位124単位の卒業要件を定め、この基準を満たした者に学士（情報科学）の学位を授与する。更に、情報科学総合コースの修了要件を満たした者には、卒業証書（学位記）に加えて「情報科学総合コース修了証」を授与する。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

情報科学部は、これからの情報社会を支える人材、特に、情報に対する倫理観や責任感を持ってこれからの情報技術の発展に貢献できる技術者の育成を目標に、基礎教育科目群、外国語科目群、専門科目群を体系的に履修できるようにしている。専門科目は、情報科学・情報技術の基礎を学ばせる「専門基礎科目」、計算機科学の基礎を学ばせる「計算機科学科目」、情報科学・情報技術および計算機科学の基礎を学んだ上で、特定の分野について学ばせる「専門展開科目」と「実践力育成科目」として構成し、情報技術者にとって必須である科目を必修科目として厳選し、基礎学力を深く身に付けることに重点をおいたカリキュラム編成にしている。また、システム開発ができるエンジニア、組込みシステムエンジニア、ネットワークエンジニア、WEB・CGデザインなどコンテンツ分野で活躍できるエンジニア、情報システム運用管理者、教員や情報科学研究者を目指す者にとって必要な専門科目を選択科目として配置し、履修モデルによって提示している。

【入学者の受け入れ方針（アドミSSION・ポリシー）】

情報科学部では、社会を十分に理解し、社会に本当に必要な情報システムの設計・開発・運用が行える人材や、人間の能力を援助し、快適なヒューマンインタフェース環境を構築できる人材の育成を目指している。そのため、次のような学生を積極的に受け入れる。

(1)「情報」や「情報」に関連した事柄に興味・関心がある人 (2)情報科学、情報技術を学ぶ意欲のある人 (3)情報技術者としての能力を高め、IT社会に貢献したい人 (4)ITによって社会やそこで暮らす人々と積極的に関わりを持とうとする人